**＜5回目のお話＞　救いの恵み**

◆**代表者による祈り**

◆**分かち合い**

救いを受けてから聖さを追求するために、みなさんはどんなことをしていますか。自分が特に注意している罪にはどのようなことがありますか。

◆**御言葉を開いてみましょう**

ローマ5:1-2

◆**御言葉を知る**

魂の救いは、この世の何物にも比べられない価値のあることです。神様は一人の人が救われることを、死んでいた子どもが生き返ること、失っていた子どもを取り戻すことだとみなされます（ルカ15:24）。今回は、救いがどのような方式でなされ、救いの結果は何であり、最後に、救われた人はどのような信仰の段階を経ることになるかについて見てみることにいたします。

**1．救いの過程**

救いは「聖霊様のみわざ」と、これに対する「人の応答」によってなされます。まず、救いの過程と関連して、聖霊様がどのように働かれるかを見てみます。コリントⅠ12章3節に、「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」とあるように、聖霊様の働きなしにはイエス様を主と告白できる者は誰もいません。聖霊様は、人が自分のことを罪人と認め、救いが必要な存在であるとわからせて下さいます（ヨハネ16:8）。さらに、聖霊様は神様の恵みを悟らせ、イエス・キリストこそが自分を救うことができる唯一の方である事実を悟らせて下さいます（コリントⅠ2:10-12）。何よりも、聖霊様は、神様が私たちをその方の子どもとして呼んだ下さったことがわかるようにされます（エペソ1:17-18）。

聖霊様が働かれて救いの恵みへと導かれるとき、人はこれに応答しなくてはなりません。マルコ1章15節において、イエス様が、「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい」と宣言されたように、人は悔い改め、福音を信じることで、聖霊様のみわざに応答しなくてはなりません。悔い改めは、「罪の自覚と後悔」ではなく、「変えられた人生」を意味します。人は悔い改めて過去の罪に満ちた人生から解放され、神様に全人生を捧げることを決断しなければなりません。さらに、私たちのために死なれ、よみがえられたイエス様が唯一の救い主であることを信じ、この信仰を唇で告白するときに、人は救いを受けます（ローマ10:9-10）。

以上のように、救いは聖霊様のみわざと人の応答によってなされます。私たちはみんな、この救いのみわざが自分になされたという事実にいつも感謝し、救いの感激を失わないようにしなければなりません。それとともに、一番価値があり、尊い、救いの喜ばしい知らせを多くの人々に伝えられるよう力を注がなければなりません。

**2．救いの結果**

救いの恵みは、一人の人が神様の子どもへと身分が変わり、天国に至るという祝福を受けるに止まりません。救いは全人的な恵みであり、私たちの霊、肉、たましい、さらには私たちを取り囲んでいる環境にまでも影響を及ぼします。それでヨハネの手紙Ⅲ1章2節は、「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります」と言っています。

救いとは、霊とたましいがいのちを得ることです。霊とたましいが生き返るのは、救われた人に与えられる絶対的かつ最も優先される祝福です。アダムとエバが罪を犯して堕落して後、人は神様との関係を断絶され、肉体は時間が流れれば土に戻るようになり、たましいは歪められ、霊は死んでしまいました。イエス様は人の霊とたましいを生き返らせるために十字架にかけられて亡くなられ、全人類のすべての罪を贖われました。よってイエス様を信じる人は、誰でも罪を赦され、霊とたましいがいのちを得て、神様との関係を回復することができます。

救いとは、すべての点で幸いを得ることです。神様は罪を犯して堕落したアダムに対して、一生苦しんで食を得なければならず、土地はいばらとあざみを生えさせるので、その人生は苦難の連続であるだろうと言いました（創世記3:17-19）。これはアダムに与えられた環境の呪いであり、その子孫である全人類も、この呪いによって苦しみを受けることとなりました。しかし、イエス様は人のすべての呪いを背負って亡くなられ、人は環境の呪いから解放されることとなりました（コリントⅡ8:9、ガラテヤ3:13-14）。これからイエス様を救い主として信じる者は、その人生がすべての点で祝福され、少しの間苦しみがあっても、結局はすべてのことを益として下さる神様の恵みを体験することができます（ローマ8:28）。

救いとは、健康になることです。神様は堕落したアダムに対し、土から創られたものは土に戻るだろうと話されました（創世記3:19）。これは、アダムが病を患い、結局は肉体の死を迎えるということです。アダムに与えられた死と病の呪いは全人類に及び、これは人々に大きな恐れを与えました。しかし、イエス様は鞭打たれ、苦しみに遭われることで人の病を代わりに背負い、十字架に架けられることで人の代わりに亡くなられました。これからイエス様を信じる人は、病の癒しを体験でき、復活と永遠のいのちを見上げながら死を恐れることはありません（ペテロⅠ2:24、ローマ6:9）。

**3．新生、聖化、栄化**

人が初めてイエス様を信じて救われれば神様の子どもとして生まれることになりますが、これを「新生」と言います。新生した人は天国を相続する者として、この世では区別された人生を送ることになります（ヨハネ1:12、ローマ8:17）。しかし、新生した者であっても、神様の子どもとして完全な人生を送ることはできません。新生した人は、神様によって義とされましたが、まだ罪が残っているため、この世に生きる間は、イエス様に似た聖さに至るために絶え間なく罪と戦いながら生きていかなければなりません（エペソ4:22-24、コリントⅠ3:16-17）。このように、一生の間、罪から遠ざかり、聖さを追い求める過程を「聖化」と言います。

　そして、新生してから一生涯、聖化の過程を経た人は、天国において栄光あるからだをもって復活し、完全な聖さに至るようになりますが、これを「栄化」と言います（コリントⅠ15:51-54、テサロニケⅠ4:13-17）。

　すべての救われた聖徒は、上記のような救いの段階を経ることになります。よって、「新生の恵み」を体験し、神様の子どもとなった聖徒は、毎日聖霊様とともに歩みながら、罪と戦って勝利し「聖化の恵み」を体験して、イエス様が再び来られるときに完全に聖くなる「栄化の恵み」を求めなければなりません。

◆**祈り及びとりなしの祈り**

1．救いの感激が私たちの心の中で冷めてしまわないように祈りましょう。

2．たましいに幸いを得ているように、すべての点でも幸いを得、健康である祝福を受けるよう祈りましょう。

3．聖さに至るために祈りましょう。

4．隣の人と祈りの課題を分かち合い、ともに祈りましょう。

以上の内容はヨイド純福音教会区域礼拝テキストから抜粋、追加、翻訳、再構成したものです。